

京都府ブランド普通大豆の育成 (生物資源研究センター・農林センター)

極大粒・良食味の白大豆新品種を育成するとともに、栽培の機械化体系を構築して省力安定生産マニュアルを作成しました。



上)子実の形状 下)成熟期の草姿
左:オオツル 中:京白丹波 右:エンレイ
左下スケールは10cm

生育ステージ	主な作業	栽培のポイント
前年	前作の跡 土づくり	可能な限り農薬雑肥の10%を散布する
5月	播種期 播種機(前作後) 多量窒素基肥 殺虫剤散布(アザムシ) 殺菌剤散布 土壌改良剤散布(播種直前) 排水溝の設置	播種機は「明きよ」 排水溝の間隔は、10m程度の倍数の間隔として設置してください 土壌改良剤散布(耕うん前)
6月	出芽期	
7月	茎伸長期 排水溝の点検・整備 条播機用一中耕・培土 防除剤(茎伸長期) 散布 排水溝の設置 (排水溝の点検・整備)	うね立て条播機用 種子5.2kg/10a うね幅30cm、株間25cm、1条2粒/ホウ 中耕うね防除剤散布 種子10.4kg/10a うね幅30cm、全長10cm程度で条、株間25cm ※ 種子の苗数は32aあたり 種子防虫(薬剤)による種子消毒(アブラムシ、フラスシロハムシ、黄斑病等)
8月	開花期 かん水 病害防除(基幹防除)	極度な乾燥・過湿を避ける(花がら、葉伸長停止の防止) 灌水開始は、10日以上の雨が降らなければ乾きかん水 は場内に灌水できない場合は穴防防止・排水溝の整備 病害を軽減し、灌やがらへスモンコウ、アブラムシ、ハダニ防除
9月	実伸長期 かん水 病害防除(基幹防除)	かん水 病害防除(基幹防除) カメムシ、芋食害虫防除
10月	子実肥大期 成熟期 茎葉黄化期	
11月	収穫期	茎の水分が高い時期の収穫は避ける。 (呼吸発熱予防のため) 茎が十分に乾燥してから(水分率30%程度) 収穫すること。
12月	出荷	

省力安定生産マニュアル



現地での機械収穫実証

- 平成25年3月25日に「京白丹波」として品種登録
- 「紫ずきん」が母親で、普通大豆の中では極めて大粒で晩生の品種
- ダイズモザイクウイルスに強い抵抗性
- 倒伏に強く、機械収穫が可能(機械化栽培実証:南丹普及センター管内)
- 煮豆は新丹波黒に似た甘味と柔らかく弾力のある食感

- 「京ブランド食品」*の原材料として付加価値の高い大豆加工食品の製造に貢献します。*(京都府食品産業協会が原材料や製法により知覚品質を認定)
- 既存の大豆産地だけでなく、加工食品をつくる地産地消・六次産業化の組織にも呼びかけ、栽培・生産を広げていきます。